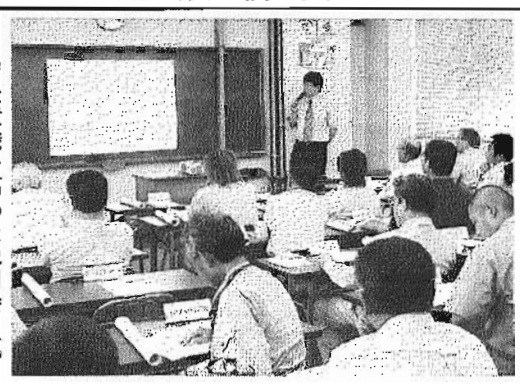
建災防県支部谷山分会 全国安全週間説明会

安全管理体制の徹底を

建災防県支部谷山分会（富迫茂分会長）は15日、鹿児島市の谷山建設会館で全国安全週間説明会を開き、7月1日から始まる全国安全週間を前に労働災害防止に向けた安全意識の高揚を図った。



安全意識を高めた説明会＝鹿児島市の谷山建設会館で

説明会では、初めに富迫分会長が「事故はいつどこで起こるか分からない。本日の説明会で学んだことを会社に持ち帰り、現場での指導をお願いしたい」と挨拶。また、鹿児島労働基準監督署の大澤隆次長は「労災発生状況は長期的にみると減少傾向にあるが、16年度県内における死亡災害は14件と多発している。気を引き締めて労働災害防止に取り組んでいただきたい」と安全管理体制の徹底を呼び掛けた。

続いて、鹿児島労働基準監督署の神村健一郎衛生専門官が、実施事項や最近の労働災害発生状況等について説明。経営トップ自らが率先した安全衛生対策を推進し、関係者一人ひとりが意識を持った安全活動を実行することが大切と述べた。また、鹿児島赤十字病院の永井先生を講師に招き、生活習慣病や熱中症対策等について講演を行った。

県造園事業協同組合 第1回全体会議

今後の活動など協議

県造園事業協同組合（丸山重之理事長）は15日、鹿児島市の吉野公園・さくら苑で第1回全体会議を開き、今後の組合活動の進め方や委員会構成などについて協議した。

会の冒頭、丸山理事長が「いよいよ今日から組合活動が本格的にスタートするわけだが、さまざまな活動や協議など会員が一つになって推進してほしい」などと挨拶した後、これまでの経過報告などについて説明した。

次いで、委員会構成メンバーの報告が行われ、各委員会ごとに今後の活動方針などについて協議。このうち、技術委員会では、指定管理者制度における今後のスケジュールなど確認したほか、どのような形で参加するかについて話し合われた。また、広報活動・技術力向上による作業効率化アップ・資格取得へ向けた講習会・維持管理業務に対する取り組み方―について活動を推進していければなどとメンバーから活動方針の提案が行われた。

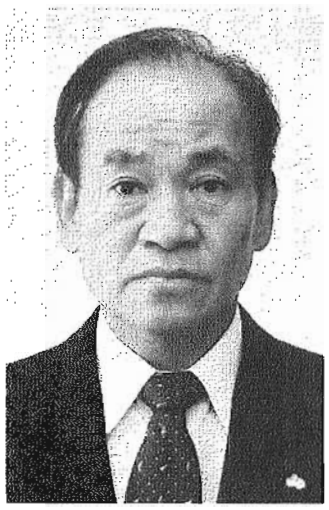
委員会活動についての協議等が行われた全体会議＝鹿児島市の吉野公園・さくら苑で

同日は、ソーケンマネジメント㈱の豊田信司氏を講師に招き、19年度から県においても導入が予定されている、指定管理者制度についての講習会も開かれた。

県板金工業組合理事長に就任した

末永 悟 氏

かお…人



材料の高騰や原料不足、会員の減少など多くの問題を抱え、非常に厳しい時期の理事長就任に「組合員が一致団結して、この不況を乗り越えていかなければならない。また、組合員でよかったと思われるような魅力ある組合づくりに取り組んでいきたい」と決意を語る。

安全パトロールの実施・組合員の増加・ボランティア活動の積極参加・青年部の育成・保証制度の充実―など組合が中心となり取り組むべき課題が多いことを認識し、「一人でも多くの組合員が会に参加してもらい、いろいろな地元の意見を出し合い少しずつ解決していければ」と会員総意のもとでの組合活動のあり方を示す。

市町村合併が進む中、指名業者が広がり入札業者数も増えたと最近の情勢を的確に把握。今後は、各発注機関に対して、分離発注の実施を要望していきたい。また、県内だけでなく、九州板金組合・全国板金組合主催の各大会へ積極的に出席し、「幅広い分野で視野を広めていかなければ、今後の発展は見込めない」と持論を語る。

魅力ある組合づくりを

趣味はゴルフ、ハンディは8。好きな言葉として努力・行動力を掲げ、「自ら進んで問題解決など取り組む姿勢が大切」と話す。9月には2人目となる孫が誕生予定とか。鹿児島市谷山中央。

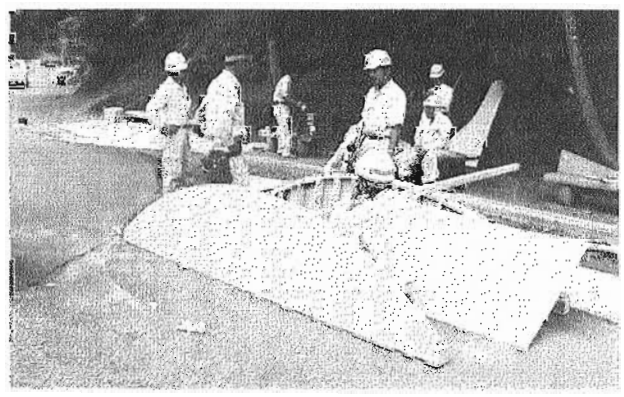
（水迫伸哉・報道部副部長）

北薩造園業協会研修会

アーチ橋技術を若い人に

北薩造園業協会（田中高徳会長、会員10社）は昨年8月、さつま町の北薩広域公園に川辺エコレンガ等の環境資材を使ってリサイクルレンガ・アーチ橋をボランティアでつくった。歩行者用の橋で径間約3・3m、全長約5・7m、幅員約2m。主要材料は川辺レンガ（2000個）。補助材料に下水汚泥からつくったレンガ（50個）やごみ焼却灰溶融物（5㎥）を使用した。

会員企業の若い社員にボランティア精神と技術を伝えようと、野田町の出水共同高等職業訓練校教室を借りて施工報告をかねて技術研修会を開いた。



型枠を製作する会員＝さつま町の北薩広域公園で

石走副会長は「循環社会の架け橋となればの思いと石橋技術の研修を目的につくってみた。私たちの熱意と技術が若い人たちにきちんと伝わることを期待します」と話した。

指導にあたった吉原進鹿大教授は「北薩もどり橋」と命名。昨年11月にオープンした足湯と共に人気施設になった。管理事務所では足湯効果もあって冬場や平日の利用者も増加。一度どうぞ。

クーズスタイル・キタヤマ

九州最大級の提案型店舗

きたやま

「ホームセンターきたやま」を運営する㈱きたやま（北山勉社長、鹿屋市）はきょう16日、同センター隣接地に九州最大級の「インテリア・リフォーム」提案型店舗KOO'S STYLE KITAYAMA（クーズスタイル・キタヤマ）を開業する。

同店舗は、単なる物販だけではなく「事を売る、時を売る」ことを主眼にして、本業のホームセンターとは一線を画す運営を志向する。店舗面積は、1、2階合わせて約1000㎡とあり同業店舗では九州最大。また、7月末には2階一部にダイニングカフェレストラン（約230㎡）をオープンさせる。

店内アイテムは「生活向上品」を取り揃え、まさに「家に還ろう」と思わせるような商品のショッピングリフォームの相談が可能。同店は、上質な時間を過ごせるようなアイテム・リフォームの提供に加え、来店時にも上質な雰囲気を味わえるような店舗つくりを目指す。

営業時間は、午前10時から午後8時まで。問い合わせは、同社（☎0994・40・7335）まで。

ジュニアマイスター教室

ものづくりの楽しさ体験

県技能士会連合会及び同団体傘下技能士主催の「ジュニアマイスター教室」が14日、薩摩川内市の里小学校で開かれ、5・6年生27人がものづくりの楽しさや素晴らしさを体験した。甑島での実施は初めてとなる。

同教室は、子供のうちから「ものづくり」の楽しさや職人技の素晴らしさを知ってもらい、技能への関心を高めようと実施。16年度までの8年間は県が委託事業として行ってきたが、17年度からは事業目的を継承しつつ、民間が主体となって実施することになった。

同日は、県畳工業組合と日本和裁士会県支部から技能士9人が同小学校を訪れ、円形ミニ畳やまち付き手さげ袋を製作。ほとんどの児童が初めての経験だったが、好奇心いっぱいの児童らは担当技能士の指導のもと、夢中になって取り組んでいた。

今回技能士として参加した㈲シオタの塩田浩一社長は「初めのうちはできないと言ってた子供たちが、できあがったときの喜ぶ姿が印象的だった。今回の体験で少しでも興味を持ってもらえれば幸いです」と話していた。

真剣に取り組む児童＝薩摩川内市の里小学校で

県事業評価監視委員会

委員9人を決定

県は8日、県事業評価監視委員会の委員9人を決定した。

委員は次の通り。

泉健子（鹿児島大学法文学部教授）志村正子（鹿屋体育大学教授）下川悦郎（鹿児島大学農学部長）田川日出夫（鹿児島大学名誉教授・元県立短期大学学長）前田明夫（同・川内職業能力開発短期大学校校長）松本譲（同・熊本県立大学総合管理学部教授）渡邊紀子（鹿児島大学理学部教授）諏訪秀治（鹿児島商工会議所副会頭）水溜満（公募委員）

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ